



本日はよくお参り下さいました

3月となりました。皆様いかががお過ごしでしょうか。天神社ではまだ梅の花が咲いています。徐々に咲いていくのを日々のお参りの折に楽しんでいただければ幸いです。さて、先日2月24日(日)政府主催の天皇陛下ご在位三十年記念式典が行われました。安倍首相の式辞は国民の想いを代弁するかのようでした。記念演奏では三浦大知さんの伸びやかな歌声が印象的でした。天皇陛下のお言葉には胸せまるものがあり、若者のつぶやきが流れるSNSでも両陛下への賛辞が並びました。ご退席の折にも壇上の一人一人にお声がけされ、最後に出席者の方へ振り返り、お手を振られるお姿に温かいお人柄を感じました。まだ式典の様子をご覧にならない方は政府のインターネットテレビで見ることができます(12分50秒まで無音声ですのでご注意ください)。今月も皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



3月

1日・15日 月次祭 (つきなみさい)
皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈る。

3日 ひな祭 古来「上巳(じょうし)の祓え」という人形にケガレを移して不浄を祓う神事であった。江戸時代以降、ひなまつりとして全国に定着した。

6日 啓蟄 (けいちつ) 冬の間、土の間で冬ごもりしていたいろいろな虫が穴を啓いて地上へ這い出してくることから啓蟄と呼ばれる。日足がのび、日の光に春を強く感じるようになる。

11日 東日本大震災 震災から8年。政府主催の追悼式が行われる。14:46より一分間黙祷を捧げる日。

18日～24日 彼岸 春の農耕を前に祖霊をまつり、豊作を願ったのが始まり。日取りが現在のように春分・秋分を中日としたのは、1844年に施行された天保暦以降である。

21日 春分・春季皇霊祭 春分は昼と夜がほぼ同じ長さになる日。この宮中では、春季皇霊祭(しゅんきこうれいさい)という祖霊祭祀が行われる。



春のお彼岸

天神さまの豆知識

—「幸い」と「災い」—

「生」と「死」は相反する対極に位置するのではなく、表裏一体をなすものです。「幸福」と「不幸」も同様に、根本では密接に繋がっています。つまり「幸い」と「災い」は、いつも同居しているという事です。「福の神」と「貧乏神」も同じように、福の神が訪れたと言って安心していても、すきをみて同居していた貧乏神が顔を出すことがあります。私どもは、不幸に対して見て見ぬふりをして通りがちですが、本当の幸福を深く理解するには、不幸の原因を探ることが必要不可欠です。「幸い」と同居していた「災い」が突如として目をさますとき、神道では古くから「慎みて怠ることなかれ」といつて諭してきました。慎みを怠ることが不幸の根本的な原因とされてきたからです。ですから常に慎

今月の言葉

『仁は人なり。人にあらざれば仁なし』

参考文献『神道の常識がわかる小辞典』三橋健著



むという気持ちと態度を忘れてはならないのです。慎みのある生活は、その人の幸せを呼び、ひいては社会全体の幸福の要因となっていくでしょう。

「仁は人なり。合わせてこれを言へば、道なり」という言葉について、松陰が解釈した一節。「仁」とは、孔子の道徳の根本原理のことで、天から知、勇、愛などの人間の本質のことをいう。松陰はとくに学問を成した知識人たちが、仁をなくしていることを嘆いている。いつの時代も学歴があるからといって、その人物に徳や志が備わっているとは限らない。今の世の中に人が人たる理由をわかつた優れた人物はどれほどいるのだろうか。引用文献『吉田松陰名言集』八幡和郎監修